

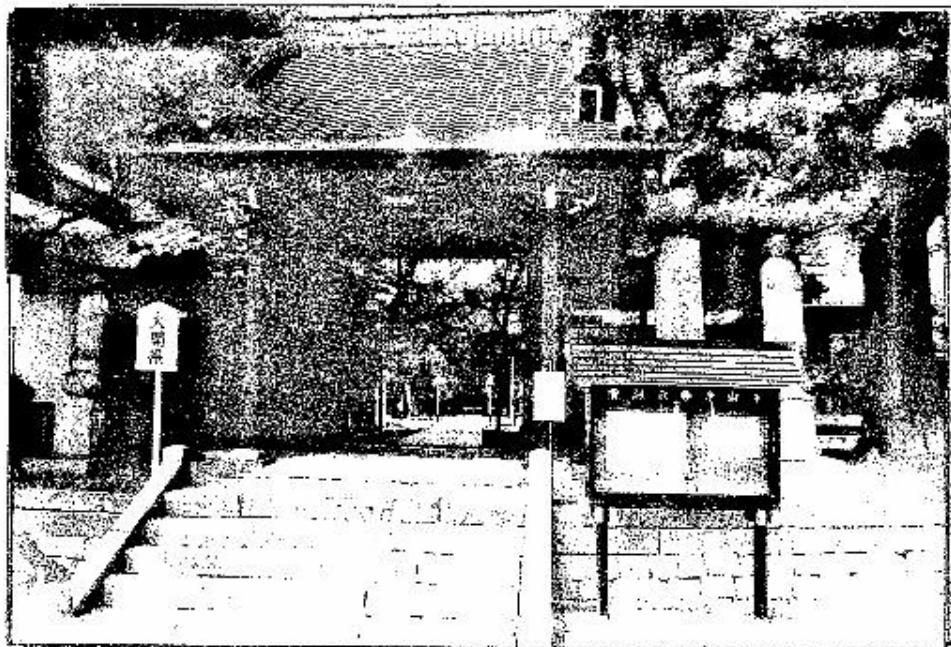
平成十八年十月二十八日（土）

第三五九回 史跡めぐり

今も残る田園風景の

野島・三野宮 を訪ねる

NPO法人 越谷市郷土研究会



野島地蔵堂

第三五九回 史跡めぐり

(雨天中止)

今も残る田園風景の

野島・三野宮を訪ねる

日 時 平成十八年十月二十八日（土）  
集 合 越谷駅西口 午前八時二十五分

コース

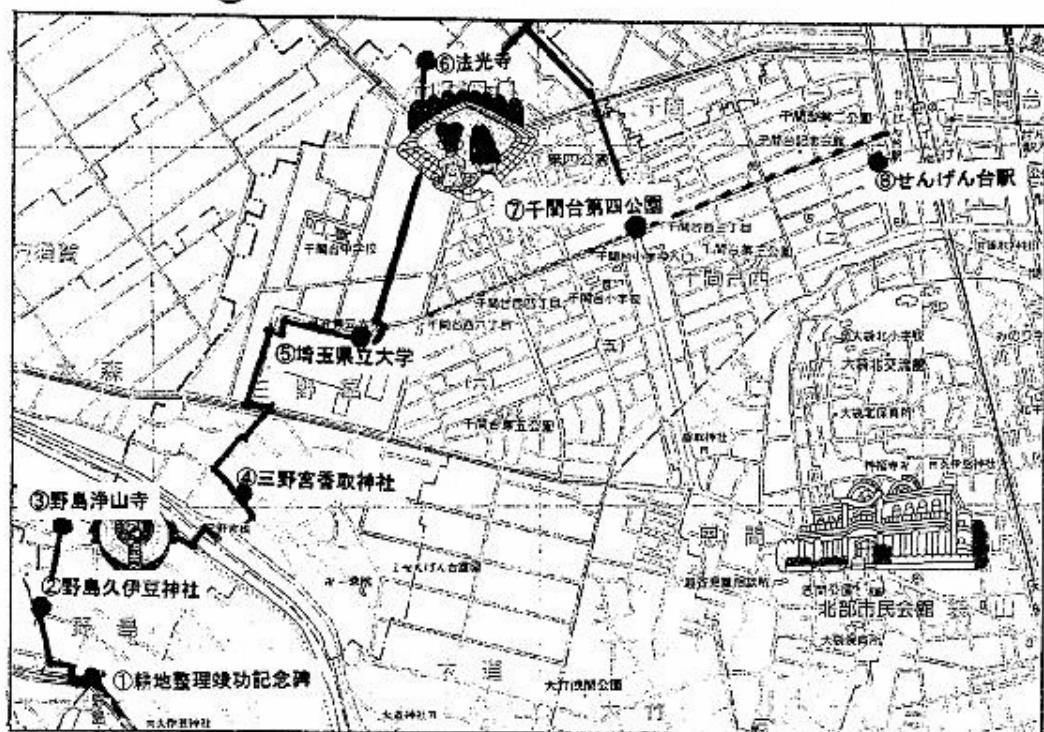
越谷駅西口 → ①耕地整理竣工記念碑  
→ ②野島久伊豆神社 → ③野島淨山寺 → ④三野宮香取神社  
→ ⑤埼玉県立大学 → ⑥法光寺 → ⑦千間台第四公園（解散）  
(解散十二時四十分頃 予定)  
最寄駅せんげん台駅迄約九〇〇m（バスの便あり）

参加費

一、五〇〇円（交通費・資料代・保険料含む）

案内者

常任理事 古澤孝



## ○末田大用水路

慶長年間の造成を伝える末田須賀溜井（岩棚）から引水され、新和、荻島、出羽地区の灌漑用水として重要な機能を果たしてきた。

## ○耕地整理竣工記念碑

昭和十八年建碑 碑銘によると昭和七年新和村と荻島村は末田用水耕地整理組合を組織して耕地の整理事業を推進させ昭和十年に竣工をみた。

その整理耕地は一、二〇〇町歩。総工費一九七、一〇〇円。

この結果、耕地反当りの収穫は増大しその恩恵は大きなものがあつたと刻まれている。

## ○野島の鎮守 久伊豆神社

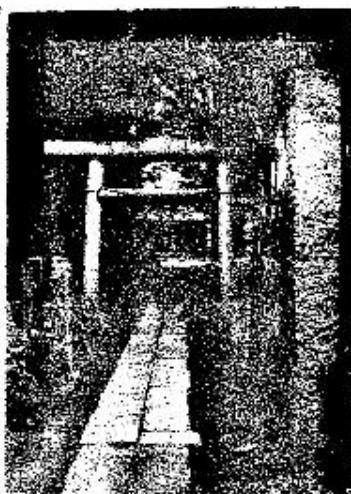
懸樋 大正六年の修繕

大典記念碑 大正六年と昭和三年建碑

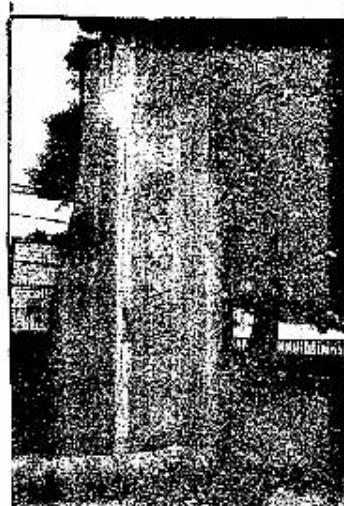
青面金剛庚申塔 正徳三年（一七一三）

榛名山大権現雷電社 天保九年（一八三八）と

刻まれた石祠がある。

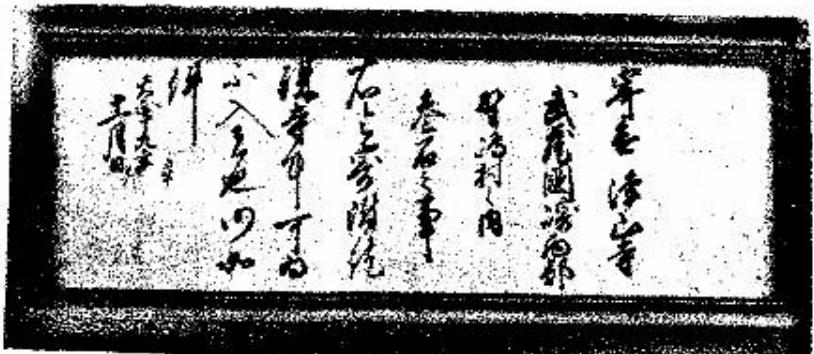


野島久伊豆神社



耕地整理竣工記念碑

## ○野島の地蔵尊



徳川家康寺領朱印状

寺号は野島山淨山寺。

円仁（慈覚大師）が創建した天台宗の寺院で、慈福寺と称し、貞觀三年（八六〇）に創立された。

本尊には自ら彫刻した延命地蔵の立像が納められている。

景春和尚（一五三九没）の代に天台宗から曹洞宗に改められ、天正十九年（一五九〇）家康が関東入国の時に寺号も野島山淨山寺と改めるよう達しがあり、寺領三石の朱印地が与えられた。

寺伝によるところの時家康から高三〇〇石の寺領をおくられたが、慈福寺では過分であるとこれを辞退した。

そこで家康は高三石の寺領朱印状を鼻紙に認めて与えたと云われ、これを鼻紙朱印状と呼んでいる。

当寺は靈験あらたかな子育地蔵尊として江戸、湯島天神など各地で出張開帳を行ない盛況であった。又、地蔵信仰の中心として各地からの参詣者で賑わっていた。

片目地蔵の伝説は寺古によると承応二年（一六五三）僧侶の姿に身をかえた地蔵が錫杖を振りながら民衆の教化に務めていたが、あるとき茶園で眼を傷つけた。そこで当時の住職が出歩かないようにと地蔵の背に釘を打ち鉄の鎖で地蔵をつないだが、享保十一年（一七二六）ときの住職がこれをみるに憚びず、地蔵の背から釘を抜き鎖を解いたと伝える。こうした故事から野島の農家では古くから茶の栽培は行なわなかつたという。

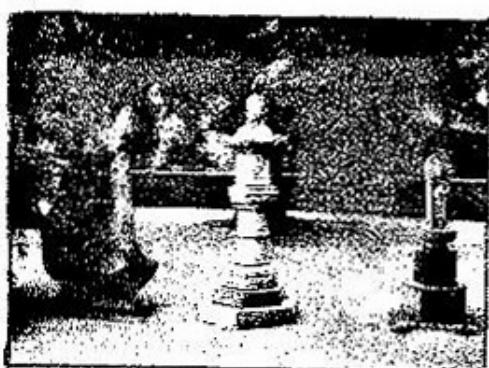
## ○ 浄山寺境内

- 丸彫の地蔵菩薩像 山門の両脇
- 左 享保十八年（一七三三） 造塔
- 右 天保十四年（一八四三） 造塔
- 鐘楼 梵鐘は昭和三十三年鋳造の鐘

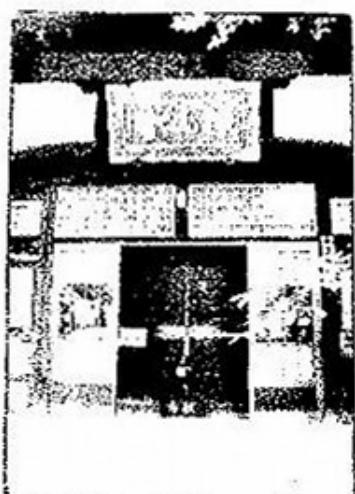
「この鐘の銘によると延享三年（一七四六）に鋳造された鐘は

昭和十八年一月軍需用物資として徵發された旨が刻まれている。

- 本堂 文久三年（一八六三）の改築のものである。
- 永代油資寄附碑 寛政四年（一七九三）
- 石灯籠 昭和四十八年奉納



境内の碑・塔



本堂

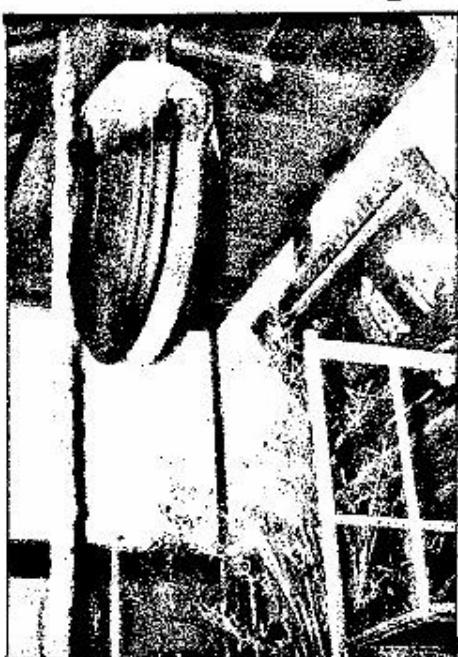
- 地蔵供養塔 明治三十二年造塔（地蔵尊は再建）
- 錫杖塔 寛政元年（一七八九）（昭和六十一年に再建）
- 普門品二十万巻供養塔 文化十年（一八一三）造塔
- 鋳鉄製天水桶 昭和四十八年
- 六地蔵尊 昭和六十一年
- 観音供養塔 寛政十二年（一八〇二）（平成八年再建）
- 石仏を納めた石祠 延宝四年（一六七六）

○日本一大鰐口 越谷市指定文化財

藤原和泉守作 天保十二年（一八四一）の銅製 厚さ六〇cm 直径一八〇cm 重量二〇〇貫（七五〇kg）

鰐口裏面の記載文には「此ノ鰐口ハ江戸四谷金勝寺二十世全達和尚ガ國家安穏、五穀豐饒ヲ祈ツテ發願セシモ不幸中途ニ於テ他界セシ為当山二十一世珉宗和尚其ノ廃願ヲ児ルニ忍ビズ一般信男信女ヨリ淨財ヲ得テ天保十二年十二月其ノ願望ヲ遂ゲ畢ル」とある。

又、江戸、神田、日本橋、深川、地元など広い地域にわたる鰐口奉納者の名が八〇名ほど刻まれている。



日本一大鰐口

## ○ 卵之助力石の三野宮番取神社

三野宮村の鎮守で享保三年の再建の後、安政六年（一八五九）に焼失し、慶応三年（一八六七）に再建され、拝殿は昭和二十六年、本殿は昭和三十八年に改築されたものです。本殿には往時の本地十一面観音像が安置されています。

境内には三基の力石が残されている。うち二基は日本一の力持ちとして知られる向佐卵之助が持ち上げた力石である。

### ○ 天神の石祠

安政五年（一八五八）筆子中によつて造塔された。これには筆子の師匠とみられる一学の名で、「神垣に 春をとなえや 梅の華」の句が刻まれている。

筆子中の中に「向佐卵之助」の名前が刻まれているが、「これはこの頃活躍した日本一の力持ちの三之宮卵之助を指すものと思われる。

- 奉納白龍石三之宮卵之助持之 嘉永二年（一八四九）
- 奉納大磐石三之宮卵之助持之 嘉永元年（一八四八）
- 大形石 卵形の力石 嘉永元年（一八四八）
- 妙見星神筑波山両大権現 嘉永三年（一八五〇）



卵之助の力石



三野宮番取神社

- 水神社 (年号不詳)
- 稲荷大明神塔の石祠 天保九年 (一八三八)
- 稲荷明神石燈籠寄進供養塔 元文五年 (一七四〇)
- 熊野三社權現 (敷地内の祠の中) 明和二年 (一七六五)
- 稲荷大明神 (北側の奥の祠の中) 寛政四年 (一七九二)



石祠・塔

三之宮卯之助は三野宮村出身の力持ちで姓は向佐 (むかさ) 氏、力持ちを見世物として一座を結成し、諸国を興行して歩いた。このときの奉納石とみられる卯之助の名が刻まれている力石は、越ヶ谷久伊豆神社をはじめ、深川八幡神社、鎌倉八幡神社、信州の諏訪神社など各地に数多く残されている。卯之助は江戸一番の力持ちと自称していたが、嘉永七年 (一八五四) 七月、四十八歳で没した。卯之助に関する残された資料は力石のほか、日本一力持ちと記された三野宮向佐家にある位牌と一座を結成し諸国を巡業したときの興業広告に用いられたとみられる版木だけであり、くわしいことは不明である。しかも卯之助の墓は越谷市内には見当たらない。

○ 埼玉県立大学

平成十一年四月 開学

平成十八年四月 短期大学と統合

この学校の目指すは

- 保健、医療、福祉の連携と統合に貢献できるスペシャリストを育成する大学
- 時代を拓く広い視野とたくましい実践力を養成する大学
- 國際社会で活躍する可能性を広げる大学
- 地域社会に開かれ地域とともに歩む大学
- 専門職資格を取得を支援する大学

保健医療福祉学部

看護学科（今こそヒューマンケア）

理学療治学科（科学的な知識技術の体系を）

作業療治学科（生活を科学するエキスパートへ）

社会福祉学科（地域と地球のソーシャルワーカー）

健康開発学科（健康な命、健康な生活、健康な人生をクリエイトする）



## 短期大学部

助産学専攻（命と性に向き合う）

### 施設

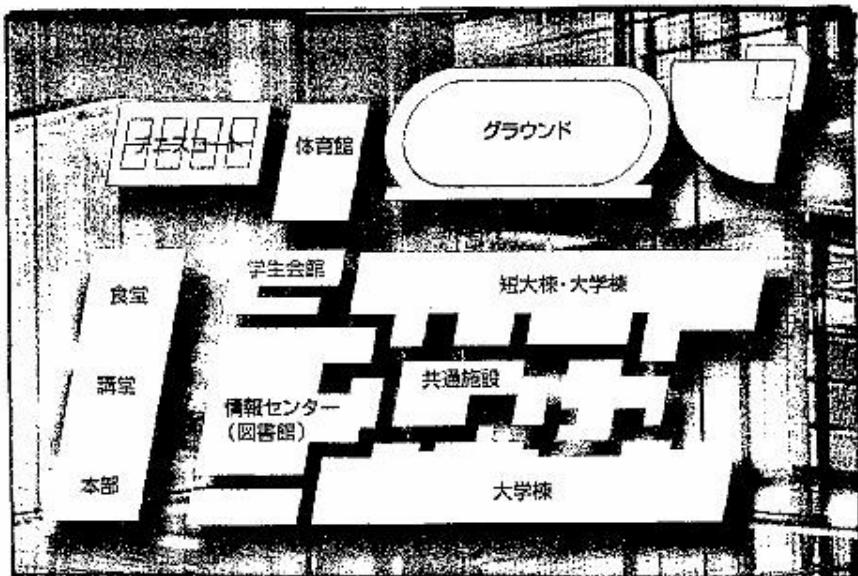
敷地面積	一〇一、二六〇坪（約三〇、〇〇〇坪）
建築面積	三四、〇三〇坪（約一〇、〇〇〇坪）
建物延床面積	五四、〇〇〇m <sup>2</sup> （約一六、〇〇〇坪）

構造規模 鉄骨鉄筋コンクリート造四階建

フォーラムゾーン、教室ゾーン、スポーツゾーンの三つのゾーンで構成されている。

大学の基本理念「連携と統合」のもと各施設が有機的に結びつくと共にエレベーターや屋上デッキ、スロープ等を通って各ゾーンへの自由なアクセス等が図られ、活動的な大学教育を行うのにふさわしい環境となっている。

埼玉県立大学



## ○写楽記念碑の法光寺

平成九年六月十九日

読売新聞に掲載された写楽に関する記事



写楽筆「嵐龍虎の金賞石部金吉」

### 写楽の正体を見てきた

## 阿波の能役者実在裏付け

江吉時代の名の通世繪師、東洲齋写楽の正体として有力視されていゝ阿波の能役者・石部金吉が、埼玉県越谷市の法光寺(通称八丁堀居十郎兵衛)で見つかった。同寺と写楽を研究している鶴巣市(「写楽の会」)の河間徹也氏によれば、「本郷兵衛」と見られる「八丁堀」「十郎兵衛」は「本郷兵衛」と見られる。毎年の記述から近頃ある中、関係者は「裏書きがあるのだ。写楽が斎藤十郎兵衛であることは間違いない」と語っている。

### 埼玉・越谷の寺に過去帳

### 八丁堀居十郎兵衛

#### 江戸期の考証と一致

して、斎藤十郎兵衛の生年は慶應十一年(一七六〇)か十二年になる。  
斎藤は慶應元年(一七〇〇)、浪者などを千住にて火祭」と記されている。「八丁堀は「八丁堀」「十郎兵衛」が「本郷兵衛」と見られる。毎年の記述から近頃ある中、関係者は「裏書きがあるのだ。写楽が斎藤十郎兵衛であることは間違いない」と語っている。

もの説が取り上げられ

ている。

このうち、浮出編の事

は参考しなかった。

法光寺は一六一七年、

江戸・浅草に建立。明治

十九年(一八八六年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

二十六年(一九〇三年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

三十二年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

三十九年(一九〇六年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

四十六年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

五十三年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

五十九年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

六十六年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

七十三年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

八十年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

八十七年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

九十四年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

一百〇一年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

一百〇八年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

一百〇九年(一九〇九年)には再び

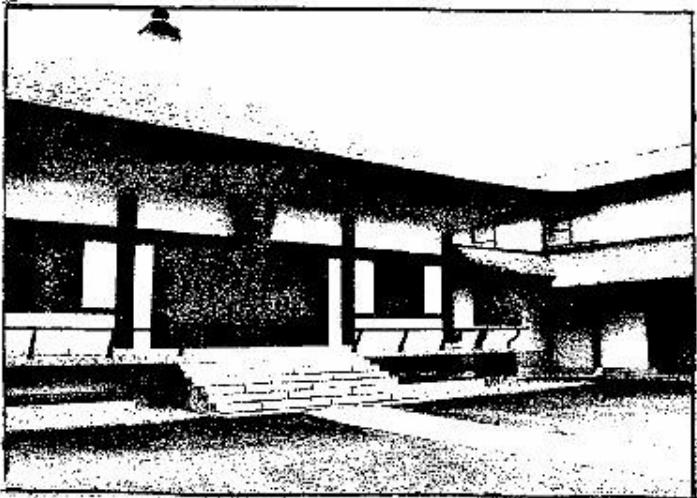
江戸・浅草に遷る。明治

一百〇九年(一九〇九年)には再び

江戸・浅草に遷る。明治

平成九年六月十九日

朝日新聞に掲載された写楽に関する記事



13版 1997年(平成9年)6月19日 木曜日

朝日新聞

## 越谷の寺で過去帳発見

「実在が確認された」

自信深める研究者  
「本人と見ていいはず」  
傍証が必要との声も



京極十郎兵衛の名前が見つかった  
過去帳は越谷市三野宮の法光寺で

江戸時代のなぞの浮世絵

師・東洲斎の人物像に

ついで、「薩摩の阿波藩に

いた船渡者兼職十郎兵衛で

はないか」と主張する歴史

研究家たちが、越谷市三野

宮の法光寺（権門円准作

離）で、十郎兵衛が実在し

たことを示す論拠を見つ

けた。十郎兵衛に関する江

戸時代の記述や、生年や生

所、氏名などが一致すると

い、歴史研究家たちは

「実在が確認された以上、

写楽とみていいはず」と主

張している。

過去帳を見つけたのは、  
「写楽の会」「花岡義代  
徳島市在住の歴史研究家脚  
り」のメンバー。今年二  
月、柳生さんが她的資料集

なぞの絵師写楽「正体」候補の一人 竜藤十郎兵衛

法光寺は東京・墨田区に  
在る。今回の発見について、  
「浮世絵を十郎兵衛とする研究  
家の内田千賀子女士（左）は

「興味深く賞めた。しっかりと

調査したい」。一方、日本

人会報されている。過去帳

によると、十郎兵衛は二八

歳（文政三年）に五十

歳で死んだといふ。

十郎兵衛はこれまで、実

だ、といふ傍証が必要だ」と語っている。

江戸以降に書いた寺だが、火

事があり、四年前に起きた

関兵衛一族の名跡が約三十

浮世絵博物館の蔵井順慶館

長谷川は「十郎兵衛は実在

た。今回の発見について、

「浮世絵を十郎兵衛とする研究

家の内田千賀子女士（左）は

# 印業と法光寺

江戸時代の謡の浮世絵師として、人気の高さ、東洋雑誌「印業の巻」の調査によると、即ち、法光寺にて発見されました。

「印口」 法光寺は、元和三年（一六一七）に江戸越草横丁町に創建されました。昭應川畔（一六五七）の大火の後、江戸繁盛に移転し、同地で三百有余年の歴史を重ね、その後、平成五年に越谷市に再移転した、浄土真宗本願寺派の寺院です。

さて、印業は、寛政六年（一七九四）から七年にかけての十ヶ月間で、和図十種あまりの役者絵などを残し、忽然と姿を消しました。

印業については、天保十五年（一八四四）、「印業 天明寛政月考（ぎつしんこ）」が「増補浮世絵類考」の中や、「印業・斎藤年中の人 俗稱 斎藤十郎兵衛 江戸八町堀に住す 阿波侯の能役者也 印東洲齋」との記述を残しています。

この印業の記録から、印業・十郎兵衛説が有力であったが、生没年などが不詳で、十郎兵衛の輪郭がいまひとつありしなかったため、印業の正体について、諸説が取りざたされました。

しかし、当寺の江戸時代の過去帳、文政二庚辰年（一八一〇）の部の中には、斎藤十郎兵衛に関する記載が発見され、印業・十郎兵衛説を書いた過去の記述を「証明する」となっています。

過去帳には、「延喜元月七日 繁大葬院覚圓題十一 八町堀地蔵橋阿州殿御内 斎藤十郎兵衛事 行年五十八歳 千住ニテ火葬」と記されています。

やがて、斎藤家代々に亘る調査した結果、寛文八年（一六一八）から明治初期に至る約一百年の間に、およそ三四十枚の記録が確認され、斎藤家と寺院法光寺との直接な関係が推察される」といわなりました。

さて、出来事の順序をあたたかく、印業・十郎兵衛説が実証され、この説の信憑性の一端が窺えました。

〔法光寺所蔵の過去帳〕

# 釋大茶院覺雲居士

辰三月七日



## [写楽の記念碑]

所在地は、獨協埼玉中・高校そばにある法光寺（越谷市三野宮1336）

町地御内  
阿列殿御内  
齊藤十良兵衛  
行掌五代義子  
文并

東洲斎写楽の正体は、阿波の能役者斎藤十郎兵衛で、宝暦十一・二年（一七六一・二）頃に生まれ、文政三年（一八一〇）に没したと推定している。

右に載せた写楽に関する過去帳の文字は、  
読売新聞（一九九七年六月十九日）に  
掲載された写楽の過去帳の文字の写真、  
及び法光寺にある写楽の記念碑に刻まれ  
た過去帳の文字をもとに模写しました。

NPO法人・越谷市郷土研究会

加藤幸一

越谷ふるさと散歩上・下

(越谷市史編さん刊行)

越谷市観光マップ

越谷市散策マップ

(越谷市観光協会)

野島淨山寺案内書

写楽と法光寺案内板

加藤幸一氏法光寺資料

埼玉県立大学案内書